

令和4年 9月27日 古賀杏奈

はじめまして！

皆さん、はじめまして。前期 OSGSプログラムに参加している、古賀杏奈です。

現在は、県内の公立中学校に通う中学三年生です。異なる文化に触れることで自分の生きる世界を広げていくことに強い意欲があり、コロナ禍でもその熱意と時間を無駄にしたいくないという思いから、このプログラムを志望するに至りました。

埼玉親善大使として、埼玉県の魅力を世界に発信できるよう、精一杯頑張りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

このレポートでは、プログラムがはじまってから、1か月で私が経験したことをお伝えしていきます。私と同じように、コロナ禍でも世界とつながる機会が欲しいと思っている方や、これからこのプログラムへの参加を考えている方の参考になれば嬉しいです。



授業の雰囲気について

初回の授業の際は、中学生の私にとって初めての、「大学の講義」に期待と緊張でドキドキしながら臨んだグレッグ先生の授業ですが、想像していたよりもアットホームな雰囲気です。今ではとてもリラックスして臨むことができます。

授業では、参加者全員が終始ミュートを解除して、何かを思いついたときに気軽に考えを共有することができるようになっています。ただの小さな思いつきが、先生や参加者と話していくうちに膨らむことで考えがまとまったり、新たな思いつきが生まれたりすることも多く、毎授業で自身の思考を発展させていることを実感しています。

また、先生は授業と関係のない場面でも、それぞれの週末について聞いてくださったり、音楽という共通の趣味を持つ私たちに、The Ohio State University Marching Bandの素晴らしいハーフタイムショーの動画を見せてくださったりするなど、常にカジュアルにコミュニケーションを楽しむ機会を作ってくださいます。

このような機会は、私にとって英語でのコミュニケーションの練習になると同時に、大学生・社会人である他の参加者のような、普段関わる機会がない人とのコミュニケーションのチャンスとして、私に新たな発見を与えてくれていると感じます。

OSGSプログラムでは、日本人参加者がフィンドレー大学の生徒とペアを組み、互いに協力しながら、一つのテーマについて探究していきます。令和4年度前期のOSGSプログラムでは、ホフステードの6次元モデル(人の価値観が文化によってどのように変わるかを6つの項目から表したもの)に沿って、メンバー全員が異なる項目に視点を置き、アメリカと日本の似ている点・異なる点について学んでいます。

私は、6つの項目のうちの一つLong Term Orientation VS Short Term Orientation (長期的志向VS短期的志向)について、パートナーのShelbyと探究しています。最初は、年齢の離れた大学生とペアワークに取り組むうえで相手に迷惑をかけてしまわないかなど、少し不安な部分もありましたが、メールや週に2回のZoomミーティングで積極的に連絡を取り合い、Shelbyとのコミュニケーションは今や私の毎日の楽しみです。

パートナーからの、今まで考えたこともなかったような日本に対する疑問や日本人が日常生活でどちらの志向を持っているかについて、改めて考えたり、伝えたりすることは、難しいときもあります。しかし、この1か月、授業内でほかのメンバーや先生が新たなひらめきにつながるヒントをくれたり、日本とアメリカの視点だけでなく、バングラデシュからの学生が私たちにとって新しい視点を共有してくれたり、というたくさんの新鮮な視点が私の考えを深めることを助けてくれました。

プログラムを通して、新たな発見や自身の改善点などすでに様々なことを学びとして感じています。それらを少しずつ自分の中で処理していき、残りのプログラムでは自分以外の視点を吸収しつつ、自分からの視点を周りに共有していくことを意識して、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。